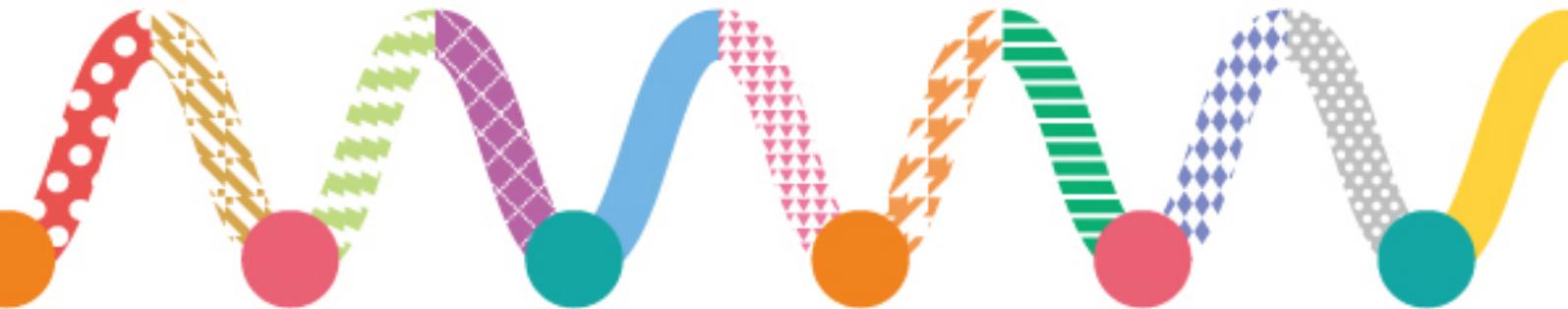


私が好き あなたが好き

自分を信じる力、友達を受け入れる力



Concept Book
– 本園の教育 –

武藏野東第一・第二幼稚園

1 自分で一歩を踏み出すことから (年長児のエピソードから)

縄跳びに挑戦している友達を見ながらじっとしている園児がいました。

そんな時、本園では声をかけるのを待ち見守ります。なぜでしょうか？それは関心をもっている園児の姿の中に、「自分の中で跳んでいるイメージが描かれ、気持ちが縄跳びに向かっている」ことが見てとれるからです。

数日後、園児自らジャンプにトライ。初めて跳べた時、園児の目線の先には、自分のことのように喜ぶ大好きな先生の笑顔がありました。

大切なのは自分自身で一歩を踏み出すこと。それが次の挑戦につながります。本園は、貴重な一歩を自分で踏み出せるよう、しっかりと支えます。

心と身体を健やかに
たくましく育てるために
3つのタネをまく

教育理念 (P3)

【園訓】

みんななかよし
すなおなこころ
こんきのよさ

2 「自己肯定感」は人生の土台です

自分を好きな人は生きる力にあふれています。そのためには、幼児期に「二つの自信」を育む必要があるといわれます。

ひとつは「ありのままの自分を好きでいること」、もうひとつは「向上する自分を好きでいること」です。

「自分は価値のある大切な存在である」と思えることを、「自己肯定感」と言います。自分自身を肯定できる子は、自らの可能性を大きく広げられるのです。

幼児期に大事にしなければならないのは、一人一人の「生きる力」であり、その軸となる「自分の心」をしっかりと育むことです。



3 自分を信じられるから 友達も信じられる

「信じる」という心の働きは、「自分を信じること」から始まります。自分を信じることができない人に、他者を信じることはできません。「私が好き」は「あなたが好き」に直結しているのです。

本園は健常児と自閉症児がいっしょに通う幼稚園です。ともに過ごすなかで、「相手を思いやる気持ち」や「関わり方を工夫する智恵」が自然と培われていきます。いろいろな友達との関わりから得られるのは、誰とでもつながりつけていくしなやかな心です。ますます多様化、複雑化する時代の中で、たくましく生き抜く力を育みます。

4 いろいろな個性があるからいいともに遊び、ともに学ぶ

本園は前向きな力に満ちあふれている子供達の世界です。毎日新しい発見と体験の連続です。

その中で互いに刺激を与え合い、つながる喜びを学んでいます。同時に、互いの違いを受け入れられる心も養われていくのです。

「社会はさまざまな個性や文化の集合体です。これからさらに多様化、グローバル化していく社会の中で、未知の出来事を前に問われるのは、人としての「生きる力」です。」

「自分の力を素直に発揮できる」「人とつながり互いに向上し合える」という本園での体験は、やがて人生の大きな財産となることでしょう。

保育のまん中には「園訓」があります

「心と身体を健やかに、たくましく育てたい」という
創立者 北原キヨの思いから生まれた本園の園訓
「みんななかよし」「すなおなこころ」「こんきのよさ」の
3つのタネが園児の心にまかれます



みんななかよし

本園には、いろいろな個性の友達がいます。友達と互いに良い関係を築きあげています。

友達との良い関係とは、相手の悪い通りになることでも、自分の悪い通りにすることでもありません。自分の思いを表現し、同時に相手の思いを感じ取ること。さらにうまくいったことも、うまくいかなかったことも含めてすべて貴重な体験なのです。こうした分け隔てない人間関係を通して、みんなそれぞれ違うことが当たり前という受容の気持ちが自然と芽生えてきます。



すなおなこころ

本園では、既成概念や先入観にとらわれない、幼児期ならではの「ものの見方や考え方」を大事にしています。善いことやいけないことなどの道徳的な価値観を、生活の中の身近なことや子供たち同士の遊びを通して、無理なく育んでいます。

さらに大事にしているのは、「すごい」「すでき」「いいね」など、良さを受け止める柔らかな感性です。また「照れずに自分の力を出し切る」という真っすぐな心の働きも大切にしています。



こんきのよさ

本園では、最後まで「やり遂げる力」を、子供たち同士の生活や遊び、行事への取り組みを通じて大切に育んでいます。それは単に最後までがんばれば良いというものではありません。成長する自分や向上する自分がうれしくて、学びそのものが楽しいと思える体験を通して、興味が継続し、夢中や熱中が持続していくことを大事にしています。

ひとつのことややり遂げるという体験は、自信を生み出し、さらなる意欲へつながっていきます。

私たちのバックボーンは「混合教育」です

本園では、健常児と自閉症児がともに過ごしています。分け隔てなくいっしょに生活する中から、ゆっくりと時間をかけて、互いに認め合う友達の関係を築いていきます。ともに育ち合う「混合教育」は、今日的に「インクルーシブ教育」と呼ばれ、日本だけでなく世界においても普及をめざしている教育モデルです

創立者北原キヨと自閉症児との出会い

本園は昭和39年(1964年)の創立以来、健常児と自閉症児のそれぞれの教育に力を注ぐとともに、ともに育ち合ひ「混合教育」を行ってきました。

そのきっかけは、創立者北原キヨが入園を希望する自閉症児と出会ったことです。

北原はその子供たちを受け入れ、自閉症児も健常児と同様に成長への可能性があることを信じ、日々食事をともにして保育にあたりました。

北原の情熱と経験から「生活療法」が生み出されました。以来、教育効果が認められて、全国から自閉症児とその保護者の方々が、集まつてくるようになったのです。



人生の基礎を培う

本園の園児は友達を分け隔てすることはありません。小さいときから生活をともにすることで、友達の関係が自然と生まれているからです。幼児は日々の生活や遊びの中で、友達と関わり、葛藤や試行錯誤、そして共感を繰り返しながら、関わる力が培われています。

混合教育の環境の中で過ごすことで、園児たちはそれぞれの違いを比較するのではなく、個性として受け入れることの大切さを学んでいきます。それは他者の立場に立って考える習慣であり、他者の心を思いやる気持ちです。

また、コミュニケーションがとりづらいといわれる自閉症児も、友達といっしょにいることが楽しいと思えるように育っています。



自然に付き合える

多様な社会の中では、いろいろな人のつきあいが大切になっていきます。いろいろな相手とつながる力や相手に合わせたつきあい方が必要です。それを自然にできるのが、幼児期から混合教育の環境で育った子供たちです。

困っている方には優しくしてあげなくては……という知識からの学びではなく、相手の個性が分かり、ここは手伝いが必要だと思えば、自然に助けることができるのです。

それぞれの園児の心にまかれた小さなタネは、やがて成長し、社会の一員になったときにも花を咲かせます。周囲とあたたかな人間関係を築き、人々に愛される大人へと育っていくのです。

それはまさに「幼児期の教育は人生の基礎を培う」ということにつながっています。





みんなで「明るく楽しく生活することから 学ぶ、身に付ける

■ 明るく楽しい生活

みんなで歌う、みんなで笑う、みんなで話す……大好きな先生と、大好きなみんなが、いっしょに過ごす時間は楽しさでいっぱいです。みんながいてくれるからこそ、喜びや楽しみは何倍にも広がっていきます。

安心して明るい笑顔で暮らすことは、生活の原点であり、成長の土台となります。本園にいらっしゃる方々が、「明るくて元気な幼稚園ですね」とおっしゃるのは、園児も先生も明るくにこやかに、そして活気のある幼稚園生活を送っているからです。



■ 気持ちの良い生活

元気に挨拶すること、きれいに手を洗うこと、毎日うがいすること、使ったら片付けること……みんなで生活する中には、気持ち良く生活をするためのルールと習慣が存在します。みんなが生活する場を心地良く整え、楽しく気持ち良い生活を作り上げていくことは、幼児期にこそふさわしい大切な教育です。自分が良いということではなく、自分が心がすることによって、友達も気持ち良く活動ができ、友達が心がてくれるから、自分も気持ち良くいられるのです。



■ 「し合う」生活

驚いたことや発見をみんなで共有し合う、心地良い生活をするためにみんなで話し合う、約束を決めてみんなで守り合う……学び合う、話し合う、喜び合う、認め合うなどの「し合う」は、どれも相手がいるから成り立ちます。



私たちは一人で生きていくことはできません。他者と関わり合いながら、より良いものを作り上げていくことに、人生の楽しさがあるのです。園児たちは、先生の力を借りながら、自分たちで考えて、みんなの生活をより良いものにしていきます。



みんなで「遊ぶことから 学ぶ、身に付ける

■ 遊びから学ぶ「生きる力」

とにかく楽しい、おもしろい、おもしろくてたまらない……子供たちの成長の原動力は、遊んでいる時間が心地良く、充実感にあふれていることです。まさに遊びは子供たちの生活そのものであり、生きる力を学ぶ場なのです。

保育は、遊びを中心にして、より楽しく充実した活動になるように組み立てられています。子供たちは、遊びを通じて、自分の力を存分に発揮することを学びます。そして、遊びの楽しさ、おもしろさは、さらに自分の力を広げていくことにつながっていきます。



■ 「遊び」はなぜ「学び」なのでしょうか？

物事を自分のこととしてとらえ、自ら進んで取り組んでいく「主体性」は、より良い人生を送るために大事な力です。自分のこととして考えられるようになれば、自分の目標に向かってがんばっていくことも楽しみになります。

その主体性を養う絶好の機会が「遊び」です。遊びを通じて、より楽しくしたい、もっと挑戦したいという気持ちが湧き上がってくるのです。幼児期に「主体的な取り組みの楽しさ」がわかれれば、小学校以降の学習にも興味を持って集中していく力が養われます。



■ 遊びを通じて手に入れる大事なこと

「遊ぶことから学ぶのは「主体性」だけではありません。遊びをよりおもしろくするために、新たなルールを決めたり、みんなが同意できるように相談したり、協力し合ったり、試行錯誤したり、失敗したり、繰り返したりする……本当に子供たちは遊びの天才です。遊びを通じた「夢中、熱中、集中、持続」の体験から、子供たちは主体性だけではなく、社会性、協調性、創造性など、人生の土台となる大事なことを学んでいきます。遊びはまさに幼児期にふさわしい総合的な学習体験です。



武蔵野東幼稚園が奏でる3つのハーモニー

幼稚園の教育環境は「ひと」「もの」「こと」の3つの要素から成り立っています。これらはつながり合い、ひとつのハーモニーとなり、本園らしさを作り上げています。子供たちはそのハーモニーに優しく包まれて成長していくのです。



人の出会い
先生たちの魅力

先生は、子供たちにもっとも大きな影響を与える存在であり、保護者の身近な相談役です。ありがたいことに、本園の先生に対して、毎年とても高い評価をいただいています。しかし、これに慢心することなく、先生同士のチームワークや保護者との連携を大切にし、より良い保育のために、さまざまな研究を重ね、日々の実践に取り組んでいます。

子供の人生の「いま、ここ」をともに

園長 加藤篤彦

子供の人生の幸せはいつも「いま、ここ」にあるのです。同時に子供たちが生き生きと精一杯に自分の興味や関心に向かって取り組んでいる時間は、ご家族の幸せに重なりります。

幼稚園生活は、目標に向かうまでのプロセスの中にある喜怒哀楽や感動など、自分の心が動いている時間そのものです。それぞれの子供たちのかけがえのない人生。今日がとても楽しく、明日はもっと楽しいことが待っているのだと、未来に向かって喜びがもてる子供たちが育つようにと願っています。

幼稚園は、みんなでいっしょに成長するところ。保護者の皆様もいっしょになって、子供の「いま、ここ」を楽しんでもらいたいだけだと思います。



子供から学び、ともに成長していく

本園の教育は、子供自身が伸びようとする力を受け止めるところから始まります。先生は、子供一人一人の姿（興味や関心や発達）をとらえて、保育計画を組み立てます。その内容は記録され、先生同士で共有されています。

また、それぞれの子供の良さを受け取ることを通じて、教える先生自身が子供からたくさんことを学んでいます。先生の学ぶ喜びは、園児たちにも自然と伝わり、強い信頼感に結ばれた教育環境につながっています。



全員が一体となったチームワーク

より良い教育実践のためには、先生の経験の蓄積が大切です。本園には、20代から40代以上まで、それぞれの年代の先生がいます。また、園児の保育に関わるのは担任の先生だけではありません。体育や音楽など身体性や感性の発達に関するさまざまな専門分野の先生がいます。

これらの先生たちが、お互いの幅広い経験や高い専門性を生かし、チームワークを大切にして保育に取り組んでいます。



さらなる向上をめざす研修と研究

本園では、さまざまな実践研究活動を行っています。その成果は、ポスター発表や報告会を通して未就園、在園の保護者にお伝えし、毎年の教育への取り組みを共有しています。同時に、国や都のレベルでの私立幼稚園の研修大会での発表や実績した公開保育を実施しています。

また、武蔵野東学園内においても、上級校の教職員と合同で研修や研究を実施し、広い視野から幼児教育を受け止め、保育の実践にあたっています。



学びを 生み出す行事 幼稚園生活の彩り

幼稚園生活で出会ういろいろな出来事や行事を通して、子供たちは学びます。四季折々にある行事は、幼稚園生活の彩りです。園児たちは、行事に向かって、みんなで力を合わせて取り組んでいきます。そして達成の喜びの中でたくさんの学びと自信を得ることができます。



憧れは人が育つ力です

普段の保育のみならず、「ハレ」の行事の時に、とりわけ輝いて見える年上の学年の取り組み……年少児は年中児、年中児は年長児の取り組みを見て、「すごいな」「すてきだな」と、憧れて成長をしていきます。

「憧れ」は人が育つ力です。この力は、自分が憧れる年長に進級した時に、年長としての自覚やプライドとして表れて、成長をさらに後押ししてくれます。また、行事は結果だけでなく、そのプロセスの中にこそ真の「学び」が存在しています。

最短距離で結果を出すのではなく、みんなでいっしょに行事という目標に向かっていく日々の幼稚園生活そのものを大切にして、私たちは過ごしています。

ほんものの体験を、ほんきの取り組みを

行事には、園児が企画発案をした即興的なものもありますし、園児自身で準備を重ねていくものもあります。

子供たちにとっては、遊びが行事になり、行事が遊びに戻ってくるのです。遊びの楽しさが繰り返されていくことで、園児の感性が大きく豊かに育っていくを実感します。

その一方で、大きく華やかな行事にも取り組んでいます。それは幼児だけでは用意できないスケールの大きな体験です。

先生たちも力を尽くして、ほんものの舞台が教育の場となるようにします。保護者の皆様には、全園児のご家族になったような気持ちで、大きな応援をいただき、子供たちの精一杯な取り組みにエールを送っていただいている。多くの皆様の前で、自分を出し切る体験から得られる自信は、言葉にできないくらい大きく、深いものとして、子供たちの心に刻まれていきます。



「場」と「もの」との出会い 子供たちの成長を願い

本園では、子供たちがより良く成長していくために「場」と「もの」との出会いを大切にしています。先生たちは、子供たちがさまざまなことに遊び出せるように、また興味がもてるように、子供たちの姿を思い浮かべながら環境づくりの工夫をしています。



子供たちの感性を伸ばす「場」の力

第一幼稚園は、安全に生活し多くの友達と自然に出会えるように、各保育室は壁を取り払い、開放的なバーゴラでエリアを分けています。園庭は中央に雨上がりでもすぐに走り回れるようにゴムチップコートが敷かれ、砂場を起点として遊具が並び、園児が遊びやすいようにレイアウトされています。夏には日よけのタープを園庭いっぱいに張りめぐらし、日陰のもとで、のびのびと身体を動かして遊べるようになっています。

第二幼稚園は、園児の活発な動きに対応できることを重視しています。園庭は2014年夏に創立50周年記念事業のひとつとして大規模な改修を行いました。子どもの健やかな成長を願い、幼児期にふさわしい活動に思う存分取り組めるようになって設計されています。



成長を後押しする「もの」との出会い

子供の成長は「もの」との関わりによって促されます。子供の遊びと生活や表現は、身近な素材と道具に興味をもち、操作しながら使いこなせるようになっていくことで、広がっていきます。また「もの」との出会いは、「素材」との出会いでもあります。素材の特性を知って使いこなすことも、大切な学びです。

さらに、子供同士が、互いに関係をつなげたり、イメージを共有するためにも、人と人の間に「もの」が関わっています。例えば、好きなレストランごっこでは、コックさんの帽子を作つてかぶるだけで、イメージが共有されて遊びが深まります。子供たちが「いま、何をしようとしているのか」を先生が理解し、「どんな場」と「どんなもの」で出会うと良いのかを考えることも、幼児教育の大切な視点なのです。

▶ 本園の教育をご理解いただくために

幼児期の教育は、「人生の基礎を培う重要なものである」と、教育基本法に明記されている大切な学校教育です。けれども教科書ではなく、遊びと生活を通して子供自らが得ていく総合的な学びですので、幼児教育の方法はなかなか見えにくいものもあります。

幼児自身が自分で良かった、さらに成長していくことがうれしいと思えることは、まさにポジティブに自己の力を広げることであり、人生の原動力となります。それは、幼稚園での明るくいきいきとした園児の姿から、感じ取っていただければありがたいです。

この「コンセプトブック」は、本園がどのような目標に向かって、どのような考え方のもとに保育環境を組み立てているのかについてまとめたものです。



武藏野東第一幼稚園

〒180-0014 武藏野市関前3-29-8 TEL:0422-51-3640 FAX:0422-51-7744

武藏野東第二幼稚園

〒180-0014 武藏野市関前3-37-10 TEL:0422-53-4367 FAX:0422-53-4373

学校法人武藏野東学園 <http://www.musashino-higashi.org/>

- 武藏野東学園事務局（北原記念館内） 〒180-0012 武藏野市緑町2-1-10 TEL:0422-52-2211
- 武藏野東小学校 〒180-0012 武藏野市緑町2-1-10 TEL:0422-53-6211
- 武藏野東中学校 〒184-0003 小金井市緑町2-6-4 TEL:042-384-4311
- 武藏野東高等専修学校 〒180-0013 武藏野市西久保3-25-3 TEL:0422-54-8611
- 武藏野東教育センター（北原記念館内） 〒180-0012 武藏野市緑町2-1-10 TEL:0422-53-8585